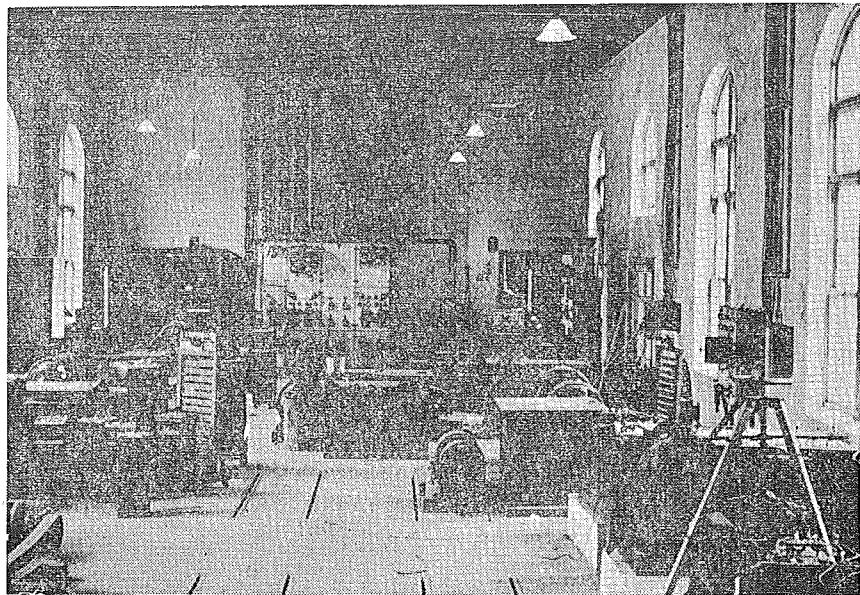


# 洛友会々報

京都市左京区吉田  
京都大学工学部  
電気科教室内  
洛友会



(実験室の一部)

実験室の写真を撮るにゾツとする会員も多からう。然し、実験のグループと云うのが、また私共人生に一つの物を残している。グループが悪太郎ばかりだったり、或は善太郎が淋しく混つていたりした。そして実験と云う触媒で、或は紫色の斑点を残したり、ほぐるのような黒点を印したり、いぼのような突起を生じたりしたものである。学生時代の悪太郎が必ずしも社会に出て悪太郎でもない。時折りはグループの思い出が懐しいこともある。

## 品位を持ちたい

最近に悲しむべきことが発生した。それは洛友会員のクラス会に起つたことである。某クラス会が特殊の建物を借用して楽しく会合し一泊をしたという。

廻が、その後で別つたことだが、煙草の火で蠱をこがしていた。これはよく有ること、一笑に附す人もあるが、深く考えねばならぬことである。旅館ならば蠱をこがしても、お客さんとして弁償しようと言つても、させないかも知れない。然るに前述のクラス会の場合、その蠱が文化財であつた廻に取り返しつかないものがある。

こげた蠱を取り替るとすれば他の蠱との色合いが違ふ。それかと云つて時代を色づけることも六ヶ敷いであろう。現実はどうすることも出来ず、結局は、この行為をしたクラス会の人々の非難となる。それが引いては洛友会の品位を落すことになる。

洛友会の会員は大学という最高の教育を受けて、世間から指導階級と見られている。指導層は、私的生活に、或る制約を受けたものである。本能のまゝに動くものは下級層なのである。

また一面、指導層にはエチケットがなくてはならぬ。エチケットとは一言にして云えば、他人に不快の念を与へぬことである。

我々には、とかく、金を縛ればそれで総てが慣れれると考へ勝ちである。旅館、料理屋、交通機関等々で乱暴狼藉に近い振舞いを行い勝ちである。例えば旅館を出立するとき、宿の浴衣を袖だたみにして置いたとする。あと片付けは女中がするのが当然であるが、女中が部屋に這入つて来た際、ちやんとたゝんであつた

ら、誠に気持の良い、奥ゆかしい感じを持つてであろう。そして、客たる人を尊敬する。その客が京大出身と判れば、京大に対する尊敬の念を持ち、これを語り拡げることになり、さすがに京大と言われ、出身者が皆な肩身の広い思いをする事となる。洛友会々員は、洛友会的品位を持つて行動せらるゝよう祈る。殊にクラス会を行う場合は汚名を残さぬよう注意せられたい。

## 虎の威を藉る狐

昭五 伊藤忠雄

私は十年前、科学勲員協合理事長多田禮吉氏から磁性を持つた鉱物鉱物中、非常に弱い磁性を帯びた稀元素鉱物の選鉱技術指導を委嘱され、各協会嘱託として日本内地は勿論、各南方地区へ技術指導に飛び廻つたことがある。

私は名刺に科勲を初め陸軍海軍各嘱託を挙げたのみで私の主宰する研究所名は書いて置かなかつた為もある。各地の指導行脚において幾度か京大の助教であるかと尋ねられたことがある。その時然りと答へたならば「一虎の威を藉る狐」となつたのであるが、その頃は年が若くて正直に私の経歴を話したところ相手は不可解な顔付きで聞いていた。

その後幾星霜、私は木材の防腐剤注入技術を發明し阪急電車の嘱託となつたが、京都大学伊藤忠雄と記入された優待券を拜領し及んで過去のことを連想せざるを得なかつた。

私は未だ京都大学の祿を盗んだことは勿論ないが、さにあらざるを敢えて大学人とさせられたり、誤解させられたりすると、京大大学の

偉大さを痛感せざるを得なかつた。そこで私は優待券の誤謬を敢えて訂正もしなかつたし、相手が自覚するまでは狐になりすましていた。「虎は虎を相手とする気持だなア」と達感したからである。所詮、阪急電車の庶務課において私に京大農学部教授としての優待券を出さしめたのは技術内容から云つての想像の他に對内的な優待券発行の資格基準の規格があるためであらうと判断していた。

併し昨年あたりから農学部教授が取消されているので、狐の正体が上層部から暴露したのかと思つて調べると優待券も大学教授では出しにくくなつたとのことであつた。

戦国策に「狐藉虎威」と、あるのは君主、貴顯の権勢をかさに着て中を利かす小人に譬へたのであるが、電気工學教室を卒業した人々の中に、虎の威を藉らない狐が果して何人居るであらうか? こういふ狐どもは、挙げて大きな虎に召し抱えられようとする。成積の良いものほど官庁、大学、大会社に勤務する率が大きいのはこの事を如実に物語つていないであらうか? かような人々の心理状態を分析すれば左の通りである。

一、京都大学を出たから自分はエライと感ずる。

二、虎会社に居れば自然に課長、部長等になれるから呑気に構へて、事勿れ主義になる。

三、前項により極言すれば、独立独立歩、氣概を高く持つて事業家になる率が少ない。たとえそれは小資本であらうとも小さな虎には相違ないのだから進んで中小企業体の中核体となれば日本の技術もよほど進むであらう。(虎の威を藉る狐の心理状態では出来ぬ相談かも知れない)

四、大学、官庁、大会社で仮りに首になつた場合を考えると、その人は個人的に見て如何にも貧弱であ

り、使い物にならない人が多い。五、容観的に見て旧帝大系のもは大きな虎会社の備人、私立系の出身は、中小会社の備人が多いと私は判断しているが、大会社ではどうか安適に走り易いが、小会社では眞剣勝負と云つた感じがする。で、却つて私立大学出身者に事業家が多いように思われる。

以上私の所感を述べましたが、私は卒業後、故青柳、本野兩教授に師事して大学院に居りましたが、虎の威を藉る狐では何事も出来ぬので大を飛び出し、独立歩で走り廻つております。戦後における私の活動方面は「鉄筋コンクリート住宅の施工法研究」「木材の防腐技術の研究」「醸酵化学装置の研究」に要約されます。何れも電気工学には頗る縁遠い問題について居りますが、全部開発研究で、自費及び他社よりの共同開発費を合算すれば年額三千万四程度になりませんが、私を利用して頂いている各会社の意気に感激しています。

### 懇話会見学記

繚乱の花も散り果て、早くも青葉、若葉が目に見え頃となつた四月の二十三日、恒例の懇話会春の大会を比叡山無線中継所の見学、延暦寺根本中堂の参観として職員学生百三十名余りが観電出町終点より出発したのが午前九時過ぎであつた。

山の峰々からは春風がみどりの香りを伝え、仰げば碧空におどる白雲二片、三片。さんさんと降り注ぐ陽光を背に受けて無線中継所へと急な坂道を登る。標高八〇〇米の叡山頂上は四月もモウモウと云うに尚お肌寒く名残りの櫻が点々と咲いて居る。遙かに霞む京の町々、青黄黒模様の毛氈を敷き詰めたような郊外の景色、天と地の重なるあたり、黒い高い屋根が黒ずんで見えるは東本願寺

か、その先きは模倣として何も判らない。一同談笑し、今日の收穫や如何にとはすむ心を抑えながら中継所の入口の杉のアーチをくぐる。昨日開所式を挙行したばかりと云う。尚その名残りをとよめた白雲の近代の建物があったりの景色と凡そ不似合な雰圍氣を漂しながら巍然と聳えている。

所員に案内され屋上に上れば屋上には巨大なマイクローウエーブアンテナが四基、強風にも耐え得るよう堅固な基礎の上に据付けられている。周波数帯三七〇M・C―四二〇M・C、利得三八D・B、以上、大きさは高さ4m、幅3m、奥行5m、重さ4噸と云うのがその規格である。このアンテナによつて滋賀県大野山中継所よりの電波を受信して、これを大阪に送り、また大阪よりの電波を受信して大野木に送るのである。

このアンテナ据付の苦心談或は導波管の材料の選定、濕氣の問題その他落雷の諸々詳細な説明を約一時間余りにわたつて聞き、時間の不足を気にしながら所内の送受信装置並に電源装置の見学をして急ぎ根本中堂に行く。このあたりには団体旅行者、見学者等多く静かな頂上の景色とは対照的な雰圍氣を作つている。

宿院にて風食を終り、坊さんの道話を聞くことが出来た。この寺には昔、法然上人、日蓮上人或は蓮如上人等の有名な高僧が修業された所であり、種々寺の歴史を聞くことを期待して来た我々には聊か期待はずれ之感が無いでもなかつた。寺の宝物或は建物等の見学をして散会したのが午後三時前、折から始つていた行者の護摩焚きの行事を参観して帰途につき、ケールカーによつて山を下り八瀬に降り立れば八瀬には既に花は無く、人影まばらにジギウギ調の花見の宴、亦方も無し。たゞ老松の梢をわが風々の音にも、

また八瀬を流れる小川のせせらぎの音にも、行く春を惜む切々の響のみが靜かに靜かに聞えて来た。

(幹事・井上記)

### 在阪十四日会々員の教室訪問

#### 教室訪問

六月十四日は在阪十四日会の戦後再開定例第四十回に当るので会員二十四名は新緑雨に煙る午後、車を連ねて電気教室を訪問した。加藤、松田、阿部、林(忠)各教授の御案内で研究室を見学して最近の研究について大いに新知識を得た。

夕方より木屋町中村家において鳥養、岡本兩先生の御出席をお願いして久し振りに歡を盡した。また東京より藤田伊八郎氏、鳥羽より田中卓次氏、地元より奥谷一彦氏の参加があつた。当日の出席者左の如し。

- 鳥養、岡本、加藤、松田、阿部、林(重)、林(千)、前田の諸先生、(大一二)今田、片岡、後藤(大一一)栗田、芦原、奥谷、磯谷、田中(通)、岐美、吉田(大一一)一本松、木津、澁谷、種田、田代、藤田、松尾、安本(大一一)前田、田中(卓)、小宮(昭二)太田(音)、熊谷、栗本(順)
- 尚お十四日は昭和の初め、大正十四年組の一本松、木津兩氏を中心に毎月十四日大阪電気クラブの定例ランチ会として発足し、これに大正十五年組が合流して二十数年の歴史を有する。
- 十二時集合、一時散会の簡素を旨とした会で一年一度位夕方から会合している、その後東京にも十四日会が生れた。
- 戦後十二年組、十三年組、昭和二年組が参加して前後五年に亘るようになったが、毎月十四日の電気クラブの定例ランチ会には大抵十五、六人の出席者があり、定連の他に地方

### 青い鳥

#### 昭二三 平野 進

から大阪に來られた同窓も時々出席されている。

チルチルとミチルが、追憶の国を訪れたときの物語――

森の中の一軒家、その窓辺に亡くなった筈のお祖母さんを見つめる。お祖父さん、それに昔の弟をも交えて、楽しい物語りは時のたつのを忘れさせた。

やがて夕やみが迫り別れを告げる頃、軒端に捜し求めていた青い鳥が居ると「この家では元氣だが外に出すとどうかね」と謎のような言葉を洩らす。

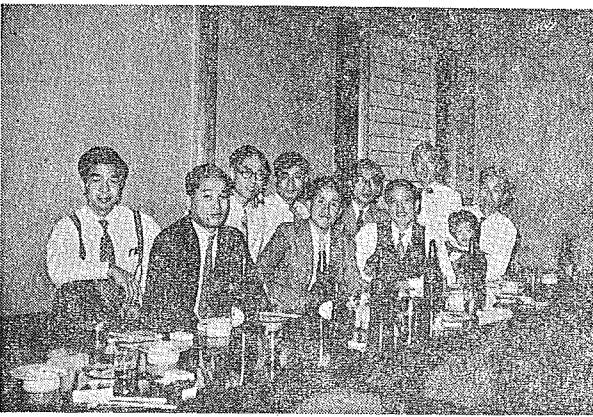
それでも強いて譲り受け、喜び勇んで辞し去る。森を出る頃垂れ籠めていた霧は霽れ始め、周りは次第に明るくなる。

昭二〇会クラス

東京在住の昭和二〇年度卒業生は広田君を交えて十三名ですが、卒業以來最初の会合を開くことになり、五月二十九日(土)午後七時から銀座孔管堂に写真のようになり九名が集り、仲々盛大でした。学生時代の思い出話、現在の仕事、家庭の様子等々話の種は盡きませんでした。十一時すぎ洛友会の発展を祈つて散会しました。

(老田)

写真向つて左より、泉、南野、広田、小泉、鈴木(照)、伊藤、大龍、小林、老田。



「あつ鳥が死んでしまつたよ。今まであんなに元氣だつたのに」「あら、ほんと、黒く萎んでしまつたわね」「うん……」「どうしたの兄さん……」「それにこれを頂くとお祖母さんのおつしやつたこと……」「そう云えばモウ一つ不思議なことがあつたよ、兄さん、今日とつても染しかつた、けれどね、お祖父さんち私達が今、どうしているとか、これから何をしたいのか少しもお話しにならないかつたわね」

洛友会々報を手にしてメーテルリンク作青い鳥の一幕を想い出すのは独り私だけであろうか。同窓会が古い歴史をもつて居れば居るほど、運営は難かしい。けれども会報をモウ少し活々と楽しいものにするには出来ぬ相談だろうか。会報の記事も投稿内容について特に制限を加える必要はないように思われる。

編集子は甚だ御苦勞ですが、モウ一工夫願います。



中国支部總會出席者名

Table listing names and counts for the China Branch General Meeting attendees, including names like 鳥養幹事, 山崎幹事, etc.

九州支部總會出席者名

Table listing names and counts for the Kyushu Branch General Meeting attendees, including names like 鳥養幹事, 山崎幹事, etc.

洛友会費領收

六月三十日まで到着の分

Table showing membership fee collection details for the Kyushu Branch, including names like 本間学, 中島省三郎, etc.

昭和二十八年年度

Table showing membership fee collection details for the 28th year of the Showa era, including names like 本間学, 中島省三郎, etc.

昭和二十九年年度(第二回)

Table showing membership fee collection details for the 29th year of the Showa era (2nd round), including names like 多田耕家, 吉田誠吉, etc.

Main table listing names and counts for various categories, organized in columns and rows.

Table listing names and counts for various categories, organized in columns and rows.

Table listing names and counts for various categories, organized in columns and rows.

編集後記

Text block containing editorial notes and commentary, starting with '会報の原稿締切が近づくと、近頃流行のクジ当りを思い出す。'

(老僧)